

群馬県i-Construction連絡会が発足

ICT工事へ高い関心

関東整備局ら

関東地方整備局高崎河川国道事務所ら群馬県内発注機関と群馬県建設業協会（青柳剛会長）、群馬県測量設計業協会（富永伸樹会長）が参画する群馬県i-Construction推進連絡会が3日、発足した。写真。建協は協会員を対象にしたアンケート調査結果に触れ、「約8割が関心を持つ一方で、ICT活用施工の実績があると回答したのは11%に留まる」と指摘。同様に多くの会



員企業が高い関心を持っていることを報告した測量協会は「不安定な立場だと全会員が思っている」と早急な施策展開への懸念も示した。連絡会には関東地方整

備局高崎河川国道事務所、利根川水系砂防事務所、八ッ場ダム工事事務所、利根川ダム統合管理事務所、品木ダム水質事務所、群馬県が参画。オブザーバーとして水資源機構群馬用水管理所も同席し、発注者双方の現状認識と課題点を話し合った。連絡会発足にあたり、高崎河川国道事務所の桑原正明所長は「ICT技術の導入を中心に当面取り組んでいく。各機関の

取組状況や課題をメンバーで共有し、どういったことをやっていくか課題をあぶりだしていければいい」と述べ協力を呼びかけた。

今年度ICT活用工事の試行に着手した群馬県の岩下勝則建設企画課課長は「地方でできるi-Constructionの取組を積極的に進めていきたい」と表明。

一方で「県内業者にやってもらいたいとの思いがあるが、キモになる3次元データの活用をだれでも使いやすいようにできないと外注になってしまう」と指摘、国へ制度構築を求めた。

群馬建協の青柳会長は「1023年で協会の雰囲気も大きく変わってきている。ICT施工に8割以上の会員企業が関

心を持っているというのは人材不足に対する危機感の表れでもあると思う」と業界の生産性向上の必要性を強調する一方で「コンサルに委託して終わってしまうのが現状。建設業としてノウハウが蓄積されないのではないかと課題点を指摘した。

測量協会の富永会長は「早急に試行が広がり不安・危惧しているところがある。魅力ある業界を目指すためのi-Constructionの視点で発注してほしい」と訴えた。